

来年のNHK大河ドラマは新島襄の妻を主人公にした「八重の桜」である。新島襄はキリスト教の普及や同志社大の創設者として名高いが、実は山田方谷と関係がある。方谷は藩財政を立て直したため産業振興政策など大改革を行い、7年で余剰金などが生じる成功を成し遂げた。この余剰金で、航海交易のみならず軍事目的のために1万8千円で洋式帆船「快風丸」

透野——緑地帯

を購入した。この快風丸は藩で生産したものを江戸などへ運ぶのに役立った。

新島襄は江戸の安中藩(群馬県)邸で生まれた。備中松

山田方谷の夢実現へ⑤

山藩は安中藩の本家筋に当たる。新島が当時禁止されていた米国への「密出国」のきっかけになったのは、彼が江戸から岡山(倉敷市)まで航海中松山藩の飛び地)まで航海

したことによる。新島はこの航海の後、快風丸で函館まで行く。その後米国に渡る。

もし方谷の財政改革が失敗して快風丸の購入ができなかったら、新島はアメリカに行くことはできなかつた。そうなる日本におけるキリスト教布教状況も異なっていたに違いない。

歴史の雄大さ、不思議さを感じざるを得ない。

連載1回目で、方谷の大河

ドラマ化の話を書いた。現在岡山市、高梁市、新見市、真庭市、倉敷市などがこの運動を通じてお金をかかずに活性化してきている。新見市では第1回方谷祭りが行われた。

地域の関連文化活動も活発化してきた。全国各地との絆もでき始めている。この運動を通じて中国地方そして日本が元気になることを確信している。

(財務省大臣官房会計課長)

東京在住)